

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
 5. 横須賀市市政記者クラブ
- 令和7年10月1日同時配布



令和7年10月1日
国土技術政策総合研究所

令和8年度 国総研交流研究員の募集

～国総研で社会資本整備に関する技術を学びたい技術者を募集します～

国総研では、地方公共団体や民間企業等の外部の技術者を、国総研の研究員として受け入れる交流研究員制度を実施しており、交流研究員は国総研の研究室長や主任研究官の指導を受けながら、社会資本整備に関する技術・知見を修得することが出来ます。

この度、新規課題を含む合計93課題について、交流研究員を募集します。

1. **受入期間** : 令和8年4月1日～令和9年3月31日の期間のうち、
原則6ヶ月以上の期間
(現在、受け入れている者であっても、年度毎に申請が必要です。
ただし、通算2年までを原則とします。)
2. **申請期間** : 令和7年10月1日(水)～令和7年11月14日(金)
(申請期間の締切については応相談)
3. **定員** : 63名 (参考:今年度受入実績54名)

○詳しくは、以下URLをご参照ください。

受入れ要領・受入れ研究課題・申請書類はこちらのページに掲載しています。

<https://www.nilim.go.jp/lab/bbg/bugai/index.html>

【問い合わせ先】

国土技術政策総合研究所

(つくば地区研究分野) 企画部 企画課 木内・底 TEL: 029-864-4283

(横須賀地区研究分野) 管理調整部 企画調整課 澤村 TEL: 046-844-5019

MAIL: nil-kouryuuken-ukeire@gxb.mlit.go.jp (つくば地区・横須賀地区共通)

共に研究を実施する

交流研究員を募集します！

申込受付期間
R7.10.1~R7.11.14
(締切期日応相談)

海外での活動

【韓国】スマートシティ実装化の現地ディスカッション (京畿道烏山市にて)

災害調査

都市

道路構造物

技術指導

上下水道

損傷した橋梁調査

八潮陥没事故 技術指導

斜面崩壊痕跡調査

奥能登豪雨時の溪流調査

能登半島地震での被災状況調査

国総研旭・立原庁舎

国総研横須賀庁舎

大規模土砂災害対策技術センター

和光庁舎

土砂災害

道路交通

所内研修

官民連携

現場視察

官民での共同研究への参画

社会資本マネジメント

河川

現地調査

既設ダムの現地調査

建設機械の現場見学

直轄事業の視察

先進事例市街地調査

- ① 国土交通省の全国で実施する**重要施策へ関わる先進の研究**に携わることができます。
- ② **これからの社会で活用される技術基準等の策定**を通じて幅広い知識と経験が得られます。これは交流終了後も業務に大いに役立てられます。
- ③ 国総研の交流研究員として、研究活動を実施する中で、**国交省職員、大学の専門家や異業種の交流研究員等多くの方との交流が図られ**、知見を深めることができます。
- ④ 交流研究員として所属しながら、大学の博士後期課程早期修了プログラムに応募し、資格取得を試みる事も可能です。

○募集テーマの例

- ・上下水道を一体とした効率的な管路マネジメントに関する研究
- ・ダム建設を効率的にすすめるための設計・施工に関する研究
- ・土砂災害発生前の警戒避難情報の提供に関する研究
- ・高速道路での自動運転の実現に関する研究
- ・橋梁下部構造、構造物境界部の性能評価法に関する研究
- ・新たなモビリティを活用した都市交通ネットワーク構築手法に関する研究
- ・インフラ分野における生成AIの利活用に関する研究開発
- ・ブルーインフラの広域的な効果に関する研究

全93課題について募集中!

等

※募集テーマ詳細については募集HP内で公開しております。

○応募方法

下記の申請書類を期限内に担当窓口までメールにてご送付ください。

- ・交流研究員受入申請書
- ・交流研究員人事記録
- ・申請期間及び交流研究員の関連業務実績調書

※様式は募集要項ページよりダウンロードいただけます。

問い合わせ先:
国土交通省

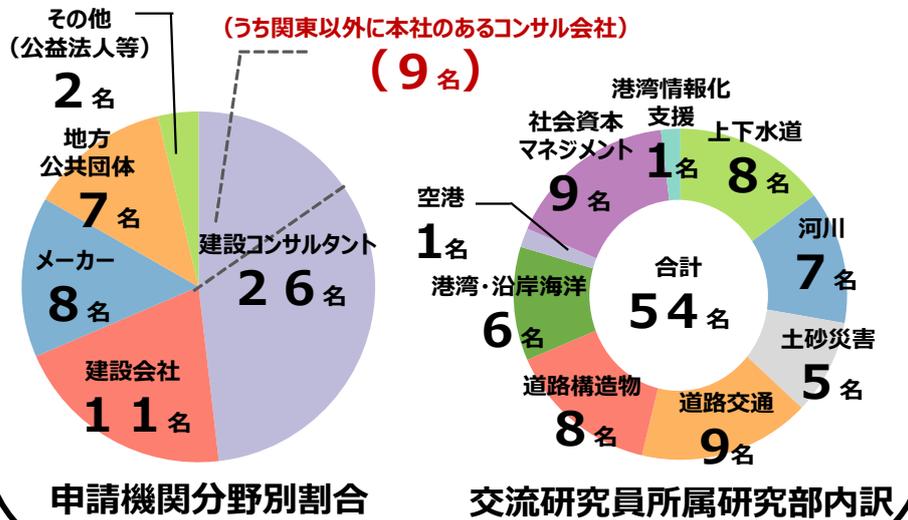
国土技術政策総合研究所
企画部企画課
管理調整部企画調整課

E-mail:
nil-kouryuuken-ukeire@gxb.mlit.go.jp

募集HP



○受入実績(令和7年度)



○先輩交流研究員の声



国総研では、災害現場の復旧に向けた技術支援、施工時の不具合の対応、基準類に関する委員会への参加などを通じて「専門家の考え」が体感できます。全国から集まる困りごとに対し「どうしたらいいかを考える」国総研での経験は、私のような地場のコンサルからの交流研究員にとって短期間で多くの経験が積める絶好の環境でした。

幸 哲也
在籍期間: R6年度～(在籍中)
本務地: 大日コンサルタント株式会社
所属: 道路構造物研究部



有識者の皆様との会議や新技術の現地視察をとおり、幅広い分野の方々と意見交換を行い、業界の垣根を越えて社会的課題と向き合う視点を得られたことは、本務地での職務にも繋がる大きな学びとなりました。

外川 弘典
在籍期間: R5年度～R6年度
本務地: 京都市上下水道局
所属: 上下水道研究部(当時)